

118. 東北の復興を応援してください

技術戦略部 次長 圓谷 秀夫

1. はじめに

私は、故郷仙台・東北総合事務所にこの1年間在籍、災害復旧・復興の支援業務などを担当し、この4月より技術戦略部に配置換えになりました。

今回のよもやま話では、大震災後の復旧・復興状況を報告させていただくとともに、東北出身者の一人として、東北復興への更なるご支援をお願いしたく、今更ながらですが、東北をPRさせていただきます。お付き合いください。

2. 3.11大震災後の下水道施設の復旧・復興

○全国からの下水道関係職員の応援状況

復旧・復興にかかる下水道事業の支援のため、H24年11月現在、全国の57団体から岩手・宮城・福島の被災3県の18団体へ延べ67名の職員が応援のため派遣されています。

○これまでの復旧・復興状況

下水道施設の多くが被災しましたが、JSは現時点で計画・設計中を除き、24団体、22処理場、17ポンプ場、合計39施設の復旧・復興の支援をしてきました。

平成24年度末までに、12団体、12処理場、7ポンプ場、合計19施設が復旧を完了しました。

平成25年度以降も継続してまいります。なかでも仙台市南蒲生浄化センターは平成27年度の供用を目指し、新しい水処理施設の建設を進めています。

○これからの復旧・復興

津波による大きな被害を受けた沿岸部の団体においては、海岸施設、集団移転、かさ上げ等の復興に関わる都市計画事業がこれから始まる場所も少なくなく、下水道事業としての新たな汚水処理や雨水排除の施設建設も始まります。

また、原発事故による警戒区域に入った公共団体においては、逐次、警戒区域が見直しされ、避難指示解除準備区域等として再編され、団体の復興計画に基づき、順次、被災調査や災害査定、そして、復旧建設工事に着手していく予定です。

3. 東北復興支援ドラマの紹介

さて、がらっと話が変わりますが、東北復興支援の一環として、東北をテーマとした多くのドラマが放映されています。その中から3つを紹介いたします。

○大河ドラマ「八重の桜」

幕末、鳥羽伏見の戦いで幕府軍は敗れ、幕府への忠誠を貫いた会津藩は“逆賊”として扱われました。鶴ヶ城での籠城戦で戦う会津藩と新政府軍との力は歴然、婦女子を含め、多くの仲間が死んでいく中、自ら銃を持ち最後まで奮戦したのが八重でした。

その後、京都で、“銃”から“知識”という新たな生きがいを得、また、日清・日露戦争では、篤志看護婦として行動する。

そんな新島八重の生涯を描いています。(主演：綾瀬はるか)

○ドラマ「アテルイ伝」

古代の東北に暮らしていた蝦夷(えみし)の人々は、固有の狩猟・漁労の文化に大和朝廷の水田耕作・鉄器利用・古墳の文化も取入れた複合文化を形成していました。

やがて東北を平定しようと北へ攻め上がってきた朝廷に対し、胆沢・大墓の族長の息子阿弋流為(アテルイ)は蝦夷連合を組織し、蝦夷のアイデンティティーと土地と文化を守るため、朝廷との戦いを決意しますが投降するに至ります。その際に、里人たちに「故郷を追われても、いつかこの地に帰れ」と言い残したそうです。

そんな阿弋流為の活躍を描いています。(主演：大沢たかお)

○連続 TV 小説「あまちゃん」

引きこもりがちだった高校 2 年生のアキは、夏休みに初めて訪れた北三陸の町で、現役の海女を続ける祖母に出会います。厳しく切り立ったリアス式海岸の海に恐れずに潜っていく祖母の姿に衝撃を受けたアキは、母の反対を押切り、この町で海女になることを決意します。

豊かな大自然の中での厳しい訓練を経て、アキは明るさと笑顔を取り戻し、やがて、地元の人々の活力・アイドルとして町おこしのシンボルになっていきます。

そんなアキの生涯を描いています。(主演：能年玲奈)

これらのドラマは東北の復興を願う応援歌です。東北の自然のすばらしさ、東北人の強さと韌さをドラマを通して是非味わってください。

4. 東北の世界遺産と観光地

○世界遺産

文化遺産は岩手県の“平泉－仏国寺（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群”、自然遺産は秋田県の“白神山地”があります。

○観光地

代表的な観光地だけでも、青森県は十和田・八幡平、岩手県は花巻・遠野、秋田県は田沢湖・角館、宮城県は松島・秋保、山形県は蔵王・天童、そして福島県は会津・磐梯と枚挙にいとまがありません。

このように、東北は世界遺産はじめ、たくさんの観光地があります。また、青森ねぶた、秋田竿灯、仙台七夕、山形花笠と夏には 4 大祭りが続き、温泉もいたるところにあります。

5. 最後に

朝日新聞によりますと、東北 6 県を平成 24 年に観光で訪れ、宿泊した人数は、大震災前の 10 年より 2 割少ない水準にとどまっているそうです。全国的には震災前の水準にほぼ戻っているのとは対照的な数字で、震災や原発事故の影響が残り、県によっても差が大きいそうです。

ぜひ、大震災、特に津波によって大きな被害を受けた太平洋側沿岸地域の復興と元気な様子を見に、そして、応援に来てください。GW や夏休みにまとまった日数で温泉に泊まり、世界遺産はじめ多くの観光地をめぐり、東北のよさを再確認してください。

がんばっぺ東北、がんばっぺ日本！